

江戸糸あやつり人形を堪能 デイサービスと茶釜の湯で公演

江戸時代から脈々と受け継がれている「江戸糸あやつり人形」の公演が3月13日、結城デイサービスセンター「ヒューマン・ハウス」と通所リハビリセンター「茶釜の湯」で開かれました。

この公演は、明治フード（本社・栃木県栃木市、田名網文男社長）の創立50周年記念事業として、同社の応援する江戸糸あやつり人形遣い、上條充さんに福祉施設などでの公演を依頼、その皮切りとして行われました。

公演は、上條さんがあやつり人形の歴史や仕組みなどをユーモアを交えて紹介。約25本の糸を使い、表情豊かに演じる人形を披露しました。

上演されたのは、お座敷などで踊られる大道芸「かっぱれ」、飲みすぎて酔いつぶれる姿を演じた「酔いどれ」、女性の繊細な仕草を演じる「黒髪」、そして人2人が入って舞う「獅子舞」の4演目を演じました。

どの演目も、人間以上に人間を感じる仕草を演じ、芸人や酔っ払い、女性の細やかな動き、そして「酔いどれ」では酔っ払いの仮面からおかめに瞬時に代わる「引き抜き」と呼ばれる早変わりの技を披露し、会場の利用者さまの目は釘付けになっていました。

最後に利用者さまの長寿を願い、獅子舞が頭を噛んで邪気を払っていきました。

2019年3月14日

